

2022年度 第45回 全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会水球 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場

【2023/3/30】

A決勝

カワサキSC 5

0	—	2
2	—	0
2	—	0
1	—	0

2 エルアテイン長浜

PSO

審判： 森下 正樹
佐賀 泰

カ	16	SH数	9	エルア テイン 長浜
ワ	1	速攻数	0	
サ	6	ST・SB	6	
キ	3	SH・P誘発アシスト	3	
S	60%	GK阻止率	55%	
C	5	EX反則数	3	

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
カワサキSC	96	49	10	22	31	50	17	12	17	50.0%

この試合までのチーム集計	Shoot	得点	P・EX	誘発PE	Sアシスト	Steal	速攻	コントラ	失点	GK阻止率
エルアテイン長浜	77	33	13	26	38	45	12	14	11	67.6%

【試合の流れ】

A区分の東西優勝候補が順当に勝ち上がったの決勝戦。お互いにレベルの高い水球を展開するが、カワサキのエース⑨武田を長浜がどこまで抑えられるか、そしてチーム組織力勝負に長ける展開に持ち込めるかが長浜の命運を握っているだろう。と同時に、勝負を左右するベンチワークにも注目が集まる決勝戦。

1P

試合開始早々長浜の⑨三輪が退水を誘発し、そこを自ら得点して長浜が先制。その後も、長浜⑨三輪からのアシストパスを④中野がシュートを決め、長浜が2連続得点。そこからはA区分としてはハイレベルなディフェンスが機能し、両チームともに得点機会がないまま試合が進行した。長浜はカワサキのエース⑨武田を徹底的に抑え、カワサキ0-2長浜で第1ピリオド終了。東西の優勝候補同士の対戦に相応しい序盤となった。

2P

なんとか反撃をしたいカワサキはセンターボールからのファーストアタックで⑩岩永がペナルティを誘発し、そこをエース⑨武田が冷静に決め、1点差に縮めた。更にカワサキ⑨武田が4人を回し込み、ペナルティを誘発。そのまま⑨武田が得点し、試合を振り出しに戻した。徐々にカワサキ側のペースで試合が進み、カワサキ側には序盤では見られなかった好プレー連発で動きが良くなってきたところで前半を折り返した。得点はカワサキ2-2長浜と同点であるが、試合の主導権は徐々にカワサキ側に傾き始めた前半であった。

3P

常に先手を取りたい長浜は②荒木を中心にセンターのスペースを利用し攻撃を仕掛けるが、カワサキもしっかりインサイドを固めて、上から打たせるディフェンスが機能して、長浜は得点に結びつかない。それに対しカワサキは攻防の切り替わりを意識し、その場面で数的有利の状況を多く出してプレッシャーをかける展開に。カワサキはスローペースではあるが着実に⑨武田が点を重ね、長浜に得点を許さない。特にピリオド終盤での退水攻撃時にベンチワークの妙を見せたカワサキ。わずかな残り時間であったが(0:09)、ベンチは勝負をかけてタイムアウトを請求。このベンチの意気込みで押された長浜は、ゴール前に位置するカワサキ⑨武田のマークが甘くなったところを右サイドから⑮矢野からパスが出て、⑨武田がブザービートシュートを確実に決めて、カワサキ4-2長浜で第3ピリオド終了。

4P

第3ピリオド終了時のカワサキ執念のタイムアウトからの得点で、ほぼ勝負の行方が決まった感じの中、両チームのディフェンスがより一層機能し、両方ともに得点のチャンスがない状態となった。長浜ディフェンスはインサイドを固め、上から打たすディフェンスに苦しめられたが、⑮矢野が8mあたりからシュートを放ち、長浜との差を見せつけ、カワサキ5-2長浜で勝利した。

第1ピリオドは長浜の固いディフェンスに苦しめられ1点も取ることができなかったカワサキだったが、少ないチャンスをエース⑨武田で得点を重ねていった。チームの組織力が高い長浜だったが、カワサキの個人技やベンチワークには一歩及ばなかった。A区分のカワサキSCはJOC夏・春連覇となった。